

今号では前号に続いて「条件文」(oración condicional)を扱います。33号ではsiの条件文の基本を確認したので今回はその続きとなります。

さて、それではsi以外の代表的な表現を見ていきましょう。まずは、“como + 接続法”です。

**Como llueva** mañana, nos quedaremos en casa.

明日雨が降れば家にいよう。

comoの節は通常前置されます。重要な点は前件の動詞の形がsiの条件文とは異なることです(後件は同じです)。siを使う場合は、**Si llueve** mañana, nos quedaremos en casaと「si+直説法現在」となります。ただし、反実仮想の場合はsiとcomoでは動詞の使い方は同じです。

**Si tuviera** dinero, iría a Barcelona.

= Como **tuviera** dinero, iría a Barcelona.

以下の接続詞句も用法はcomoと同じです。つまり、siの条件文のみが特殊だと考えてください。

さてそれでは、条件接続詞句を見ていきましょう。これらはどちらかと言えば書き言葉でよく使われます。

**Con tal (de) que** me lo **devuelvas** la semana que viene, te prestaré mi ordenador.

もし来週返してくれるならば僕のパソコンを貸してあげよう。

con tal (de) queは、通常望ましい仮定を表すために使います。最小の条件(～するだけで)というニュアンスがあります。なお、deはあってもなくても構いません。

以下の構文では名詞に本来の意味が残っています。en (el) caso de que～(～する場合は)、a condición de que～(～する条件で)、a cambio de que～(～する代わりに)などがあります。例を1つだけ挙げておきます。

Te pediré la colaboración **en caso de que** yo la **necesite**.

必要な場合は君に協力を頼むだろう。

次に紹介するのは否定的な意味の条件接続詞句です。a no ser que～(～しなければ)、a menos que～(～する以外)、salvo que～, excepto que～(a menos que～とはほぼ同意)などがあります。

**A no ser que** se **oponga** algún miembro, cambiaremos el reglamento de la asociación.

会員の誰かが反対しない限り会則の変更を行います。

“de + 不定詞”で条件を表すことができます。

**De enterarme** de algo nuevo te informaré de ello.

何か新しいことに気づいたら君に報告するよ。

不定詞を完了形にすることで反実仮想の過去になります。

**De haber conducido** con más prudencia habrías evitado ese accidente de tráfico.

もっと慎重に運転していれば君はその交通事故は防げただろうに。

さて次は前件が文でないものや慣用的なものを例文とともに見てみましょう。

**Sin su ayuda** no **hubiera sido** posible la publicación de mi libro.

あなたの助けなしでは私の本の出版は可能ではなかったでしょう。

**En tu lugar** yo no **vía** por una zona tan peligrosa.

私が君の立場ならそんな危ない地域を旅行しないだろうね。

**Yo que tú** no me **habría comportado** tan mal.

もし僕が君ならそんなに悪い態度を取らなかっただろう。

いずれの例文も前半部は事実と反対のことを表現していて、反実仮想の前件文の代わりとして働いています。

また、現在分詞や過去分詞を使った構文で条件を表すことがあります。

**Pensándolo** bien me he dado cuenta de que tenías razón.

よく考えてみると君が正しかったことに気付いた。

**Despejadas** estas chabolas tendríamos un amplio terreno para construir un edificio moderno.

これらの貧しい家屋を取り除くと、近代的なビルを建てる広い土地になるだろうに。

現在分詞にも過去分詞にもそれ自体で条件の意味があるのではなく、文脈によって条件の意味として解釈されていることに注意してください。

さて続いて、等位文(～ y ～, ～ o ～)で条件の意味を表現するケースを見てみましょう。

**Aprueba** todos los exámenes **y** te compraré la moto.

試験、全部合格しろよ。そうするとバイクを買ってやるよ。

**Acábate** la cena **o** no verás la tele.

晩ご飯を終わってしまえ。じゃないとテレビ見ないよね。

続いて、逆に接続詞siを用いながら意味的に少し条件と言い難いものを取り上げます。実際スペイン語の「si～」という文を日本語の「もし～ならば」に訳して考えるとわかりにくいケースがあります。

**Si** antes ellos iban juntos a cualquier parte, ahora no se hablan.

以前彼らはどこへ行くのも一緒だったのに今では話もしない。

この文は条件というよりもむしろ「譲歩」を意味しています。

**Si** Madrid tiene el Real, Barcelona tiene el Barça.

マドリードにレアルがあるとすれば、バルセロナにはバルサがある。

これはsiの対比(contraste)用法とでも言えばよいでしょうか。SiをMientras(～の一方)に置き換えるとわかりやすいでしょう。

次の例文は「皮肉」を表現する口語的表現です。

**Si** ese tío es científico, yo soy Einstein.

もしやつが科学者ならば俺はアインシュタインだ。

この構文は反実仮想の形式になっていませんが、「私」はアインシュタインでないので事実には反します。自分は天才学者アインシュタインではないということに引っかけ「あいつはヘボ研究者だ」とか「研究者ですらない」と揶揄する誇張的な用法です。

条件文はたいへん複雑なので2号に渡って解説しました。基本的な用法から確実に身につけていってください。



仲井 邦佳 / Kuniyoshi Nakai

立命館大学産業社会学部教授。専門はスペイン語学。著書に『はじめてのエスパニョール』(共著、三修社)、『中級スペイン語一文法と演習』(共著、同学社)などがある。